

## 家庭教育推進事業について（第 7 回社会教育委員会議要録 抜粋）

### 1. 家庭教育の本質について

- ・家庭教育を考えるときに、家庭さえしっかりしていれば何とかかなると思ってしまうところがある。ところが家庭にはそれだけの力がないし、逆に家庭にそれを求めすぎるからこそ余計に負担になって、一番弱い子どもにしわ寄せがいつているのではないかと。そのことを考えれば、その部分を社会で引き受けられる力を持たなければいけないと思う。
- ・子どもが産まれたときから家庭教育をしないといけない。自分を知って生活するというのも家庭教育ではないかと思う。やはり家庭教育の原点は「家庭」である。
- ・最終的には家庭なのだ実感している。キレたり、荒れたりする子どもたちの中で、じっくり話を聞いていくと、学校にも問題があったり、学校の指導の仕方や他人との関わり、友だちとの関わりがうまくいかない子どもたちも多くいる。家庭で可愛がられていない、愛を受けていないという不安のもとに学校に来ていると感じている。これは親だけの問題ではなく、世の中の、社会の情勢不安が子どもたちにも影響していると思う。
- ・子どもを育てる部分が非常に狭められている。遊ぶ時間が非常に限られて、勉強に行く、練習に行く、そういう閉ざされた社会で生きている。勉強の上での切磋琢磨はあるかもしれない。ただし人間、生物として生きる切磋琢磨の時間が非常に少ないように思う。
- ・親子で参加できるイベントはとても大事。子どもが主体の活動の中でも、お父さん、お母さんのつながりが育まれていく。月一回か二回でも家族以外の人たちと、何かを一緒にやるということで、お互いにストレス解消になり、大変なのは自分だけではないということ共感でき、お母さんたちも救われるようである。親子で一緒に感動する、こういう機会があると少しずつ親子の会話の幅が広がっていき、普段は見えないお父さんの一面が見えたりして、家庭内の息詰まりを打開してくれるのではないかと。
- ・社会教育の立場から家庭教育の推進ということで、解決に向かうこともあるかもしれない。

## 2. 親と子どもの関係について

- ・家庭における子どもとの関係の中で、直接話すことだけでなく、文章で話すことも大事ではないかと感じている。
- ・親の額の汗と背中を、子どもたちに感じてもらうことは大切である。  
スポーツを通じて、親子の交流をはかってもらうのも、一つの方法である。  
市や地域も含めたいろいろなスポーツ活動に保護者にも参加してもらい、  
わが子の成長ぶりをみて、理屈でなく子育ての素晴らしさを実感してほしい。
- ・家庭環境が大変な人が多く、両親が離婚した家庭や母子家庭など、経済的なことをかなり背負っているような学生が、珍しくなくなっている。
- ・食育はとても大事である。一緒にご飯を食べるだけでも信頼関係が築ける。食育という観点では、もっとクローズアップされて良いのではないか。
- ・虐待している方の半数が実の母親である。母親に子育ての負担がかかっている、現実的になかなか子育てをしにくい社会状況にある。就職もできない、お金もないなど経済的な問題は大きいのである。親だけの責任という形の中で、虐待の問題を取り上げるのは好ましくない。

## 3. 学校と子どもの関係について

- ・「家庭の闇」これは担任や学校では見えないものである。子どもは色々なことを抱えながら学校へ来ている。「家庭の闇」を持ちながら来ている子どもが、学校で元気に過ごせることが必要である。子どもは、少し声をかけるだけでも元気になってくれるので、学校に来たら元気になれるような学校が求められている。

## 4. 家庭教育推進事業のあり方について

- ・家庭教育推進事業の会場として、現在は生涯学習市民センターを多く使っているが、将来的には、小学校区単位になるとより身近になる。しかしながら、こうしたシステムは学校教育と家庭教育とのマッチングが必要である。
- ・講座の意義はあると思うが、家庭教育の支援は非常に難しい課題である。
- ・講座は、広報に力を入れれば、ニーズはもっとあるのではないか。地域のお母さん方の

ニーズに応えることが求められる。

- ・枚方市では様々な地域で、多くの講座が開催されており、子育てサークルも多く、恵まれていると思う。  
しかし、そういう場に行けない、一歩踏み出せないという方もいると思われるため、そこを支援できれば、随分救われるのではないか。